令和5年第2回定例
夕張市議会会議録
令和5年6月8日(木曜日)
午後6時30分開議

◎議事日程

第1 一般質問

◎出席議員(8名)

徳谷康憲君
荒井周司君
工藤政則君
君島孝夫君
櫻井暁君
千葉勝君
高間澄子君
大山修二君

◎欠席議員(0名)

午後6時30分 開議

●議長 大山修二君 これより、令和5年第2回定例夕張市議会第2日目の会議を開きます。

●議長 大山修二君 本日の出席議員は8名、全員であります。

●議長 大山修二君 本日の会議録署名議員は、会議規則第125条の規定により

櫻井議員

千葉議員

を指名いたします。

●議長 大山修二君 ここで、事務局長から諸般の報告をいたします。

●事務局長 佐藤浩一君 報告いたします。

本定例市議会に出席を求めた説明員の一覧につきましては、先に報告のとおりであります。

以上で報告を終わります。

「別紙」

市長 厚谷 司 君
教育長 小林 広明 君
選挙管理委員会委員長

柳 沼 伸 幸 君
農業委員会会長 後藤 敏一 君
監査委員 西田 洋二 君

◎市長の委嘱を受けて出席した者の職・氏名

副市長 本間 和彦 君
総務課長 芝木 誠二 君
地域振興課長 菊田 大介 君
財政課長 板垣 克巳 君
税務課長 秋山 俊輔 君
建設課長 押野見 正浩 君
土本水道課長 阿部 充雅 君
上下水道担当課長

小峰 健一 君
市民課長 芝木 誠二 君
保健福祉課長 鈴木 茂徳 君
生活福祉課長兼福祉事務所長

平塚 浩一 君
消防長 石黒 友幹 君
消防次長 千葉 恭久 君

◎教育委員会教育長の委嘱を受けて出席した者の職・氏名

教育課長 堀 靖樹 君

◎選挙管理委員会委員長の委嘱を受けて出席した者の職・氏名

事務局長 芝木 誠二 君

◎農業委員会会長の委嘱を受けて出席した者の職・氏名

事務局長 中川 雅俊 君

◎監査委員の委嘱を受けて出席した者の職・氏名

事務局長 佐藤 浩一 君

◎本議会の書記の職・氏名

事務局長 佐藤 浩一 君

書記 山下倫弘君
書記 佐藤由貴君

●議長 大山修二君 本日の日程は、お手元に配付しているプリントのとおりであります。

それでは、直ちに日程に従って会議を進行いたします。

●議長 大山修二君 日程第1、これより昨日に引き続き、一般質問を行います。

本日の質問者は、櫻井議員、工藤議員であります。

それでは、櫻井議員の質問を許します。

櫻井議員。

●櫻井 暁君(登壇) 日本共産党の櫻井暁です。私は、4月に実施されました市議選挙におきまして、無投票ではありますが、初当選することができました。ご支援をいただいた皆様に感謝申し上げます。現在の市政運営はどうしても困難なことがあろうかと思いますが、財政再生団体からの脱却後の夕張市の姿を想像力を持って考え、市民の皆さんとともによりよい市政の発展のために力を尽くして参ります。どうぞよろしくお願いいたします。

では、通告に従いまして、3件6点質問いたします。

1件目、学校給食についてです。

要旨の(1)学校給食費の無償化についてお伺いいたします。

現在、道内40市町村が小・中学校ともに学校給食の無償化を実現しており、国による異次元の少子化対策においても給食費無償化が盛り込まれていく方向性もあり、議論すべき大きな課題と考えています。

日本国憲法第26条第2項に、全て国民は法律の定めるところにより、その保護する子女に普通教育を受けさせる義務を負う。義務教育はこれを無償とすると明記されていますが、全国的に授業料以外のドリル、通学かばん、給食費などは個人負担となっています。文部科学省の学校給食調査によると、保護者が負担する給食費の月額、小学校で約4,300

円、中学校で約4,900円と決して安くはない金額となっています。民間企業でのアンケート調査でも、無償化すべきが56%、一部負担すべきが24%、すべきではないが12%となっており、子育て支援、少子化対策の一環として肯定する意見が多く見られました。

そこで、定住や移住の観点からも子育て世代には重要なものと考えますが、市長のご所見を伺います。

●議長 大山修二君 厚谷市長。

●市長 厚谷 司君 櫻井議員の学校給食費の無償化についてのご質問にお答えをいたします。

給食費につきましては、これまでも世界的な物流の停滞、原油価格の高騰、鳥インフルエンザなどの影響により物価高騰のため、給食費による収入だけでは適正な給食の提供に必要な食材の購入が難しくなっており、献立を工夫するなど対応している、そのように伺っております。

また、新型コロナウイルス感染症の交付金を財源に、保護者には新たな負担を求めず対策を講じてきたところでございます。

今後、給食費の無償化につきましては、子育て政策全体の中で検討したいと考えているところでございます。

以上でございます。

●議長 大山修二君 再質問、ありませんか。

櫻井議員。

●櫻井 暁君 ご答弁ありがとうございます。

先日、中学校から配付されました保護者向け事務だよりには「給食費無償化の話」と題してこのように書かれていました。夕張市近隣市町村の学校事務職員で構成されている団体の調査によると、南幌町が町内産の米・パン・麺を無料としていたり、栗山町や由仁町は農協の寄付によって安くなったりしています。また、このたびの新型コロナウイルス感染症対策の交付金により、夕張小・中学校においても令和4年度末に給食費の軽減がありました。栗山町はこれにより令和2年度2学期から令和4年度末、3学期まで無償化が実現。2023年の6月に政府が発表する「骨太の方針」では、給食費の無償化につい

て何かしらの発表がある可能性が高いとのこと。いつかは夕張市の給食費が無償化されることを期待し注目していますとありました。これは保護者全体が目にしていきます。

産炭地では、美唄市、歌志内市が小・中学校無償、三笠市は小学校のみ無償、ほかに第2、3子以降や中学生分を無償にするなどの軽減策を用意している自治体もあります。一度ではなく段階的にでも、そのいつかが少しでも早く実施されることを要望し、ご検討をお願いいたします。

次に、2件目の学校のトイレへの生理用品の設置について伺います。

今年度から、全ての道立学校でトイレに生理用品を置くことがスタートしました。夕張高校でも、現在配備されているとお聞きしました。コロナ禍では「生理の貧困」という言葉が使われていましたが、現在は「生理の尊厳」という表現がスタンダードになっています。これは人間の生理現象のための対応であり、トイレットペーパーと同じ扱いをするのが人権を尊重したごく普通の措置であると考えます。

小・中学校での生理用品の設置について、市長予定候補への公開質問状において、生理用品の学校トイレへの配備は令和5年度に設置すべく対応したいとの回答があったことから、いつからどのように行うのか、現在の検討状況と今後の対応について伺います。

●議長 大山修二君 厚谷市長。

●市長 厚谷 司君 ただいまの櫻井議員の学校のトイレへの生理用品設置についてのご質問にお答えをいたします。

現在、生理用品の設置に向けまして、小・中学校の理解の下、準備を進めているところでございます。設置の時期につきましては、現段階では明言できませんが、準備が整い次第、まずは試験的に実施をし、小・中学校の先生の負担や限られました予算の中で、本来購入すべきものに影響がないかなどをしっかりと検討した上で、本格的に実施をしたいと考えているところでございます。

以上でございます。

●議長 大山修二君 再質問、ありませんか。櫻井議員。

●櫻井 暁君 前向きなご検討をいただき、ありがとうございます

ここからは要望としての発言ですが、夕張高校生に聞いてみたところ、トイレには置いてあるけれども掃除用具のロッカーにあって使いにくい。また、個室に一時的に置く棚がないので床に置いたりしているとお話が出ていました。このように効果のある設置とは思えません。

生理周期は人それぞれで、小・中学生でしたらなおのこと定まらず、突発的に起こって戸惑うことがほとんどです。そのようなときにでもすぐに対応ができるように、女子トイレの各個室に、そして手の届く場所に置いていただきたいと思います。

先日、娘から、こんな便利なのがあるよと見せられた画像には、トイレットペーパーのように巻かれたアメリカ発のロール式生理用品がありました。ディスペンサーに取り付けられることができるものです。使いやすい製品の研究がされていることに驚きました。

そこまでは行かなくても、クリアファイルを粘着テープで壁に固定してケースとして使ったり、100円ショップの籠を取り付けたりなど、各市町村で工夫している例を参考にできると考えます。補充に関しても、夕張の生徒に聞きましたら、掃除当番に合わせてできると思うと話していました。

また、無償で使うだけではなく、逆に誰かのために置いていくことも尊重し、それを促すメッセージを貼り付けて継続的なシステムを導入しているところもあります。

どちらにしても、担当者や教員の負担にならないような方法を生徒も含めて考えることが大切です。そして、体の仕組みや片づけのマナーなども一緒にプリントにして掲示を合わせていくことで教育の機会にもなります。ぜひ教育の一環として子どもたちも生理用品設置を担えるような環境づくりを強く求

めます。

続きまして、3件目の夕張高校魅力化事業について伺います。

要旨の1点目、市外からの生徒の受入れについてお聞きします。

3月の予算審査の回答では、地域と学校が連携して課題解決を行うための有効な施策を担う地域プロジェクトマネージャーの採用を目指し、また、既存の施設などを活用した下宿やホームステイでの受入れを検討しているとありますが、体制の進捗状況と今後の展望について伺います。

●議長 大山修二君 厚谷市長。

●市長 厚谷 司君 櫻井議員の地域プロジェクトマネージャーの採用及び既存の施設等を活用した下宿やホームステイでの受入体制の進捗状況と今後の展望に関するご質問にお答えをいたします。

地域プロジェクトマネージャーは専門性を有する人材の選定でありますことから、令和4年度内での採用には至らず、現在、令和5年4月に再度採用支援業務委託契約、こちらを締結をし選定業務を進めております。委託業者におきましては、複数の企業や地域プロジェクトマネージャー養成講座の修了生など、各方面に対する調整を行いながら面談等を実施しておりますが、現段階では採用には至っておりません。

地域プロジェクトマネージャーは夕張市の考えに即したよりよい人材を採用することが重要と考えておりますので、引き続き委託業者と連携をしながら早期採用を目指して参ります。

また、市外生徒の受入れにつきましては、現在、全国における取組事例の調査結果でありますとか、3月に開催をいたしました市民の皆様との座談会において伺ったご意見などを参考にしながら、既存の施設等を活用した下宿運営や希望する一般家庭でのホームステイなど、具体的な受入体制の検討を進めているところでございます。

以上でございます。

●議長 大山修二君 再質問、ありませんか。

櫻井議員。

●櫻井 暁君 いろいろと検討されていることとということで、ご返答ありがとうございます。

今年2月の広報ゆうばりの中に、市外からの生徒の受入れについてご協力いただける方を探していますという内容のプリントを周知されましたが、保護者からは、聞いていなかったのが驚いた。市民からも協力したくても不安のほうが強いといた声も聞かれています。その後、企画された座談会では、興味のある方々が参加して必要な課題が出されたことは存じております。その中でも出されましたが、不安を払拭するためにも、受入側も利用する生徒側も相談ができる地域での調整役が一番必要になると考えます。地域と高校の全体を把握するための地域プロジェクトマネージャーのほかに、実際の受入現場の環境を整える役割を持つコーディネーターのような人材を今後配置することは検討しているのかを伺います。

●議長 大山修二君 厚谷市長。

●市長 厚谷 司君 櫻井議員の再質問にお答えいたします。

ただいま再質問にございました地域での調整役ということでのコーディネーターのような存在ということでございますが、市民の皆様との座談会におきましても、受入環境全体、これを専門とするコーディネーターが必要とのご意見をいただいているところでございますので、今後、受入環境の状況に応じて必要性を検討して参りたいと考えております。

以上でございます。

●議長 大山修二君 再質問、ありませんか。
櫻井議員。

●櫻井 暁君 ありがとうございます。

手探り状態ではあるとは思いますが、地域一丸となって高校生を育てていくということであれば地域の方々の理解が欠かせません。夕張は、役に立ちたいと思ってくださる一山一家の精神を持った方が多いすばらしい地域だと思いますが、厚意に甘えるのではなく、厚意を生かしていける丁寧なシステムづ

くりが必要です。持続可能な方法を考えるために、これからも地域との意見交換の場を設定していただきたいと思います。

では、次に要旨の2点目に、夕張の環境を生かした独自のカリキュラムについて伺います。

市長の所信表明において、総合的な探求の時間における夕張の歴史風土と環境を生かした独自のカリキュラムづくりを進めているとありますが、具体的にどのような内容を想定しているのか伺います。

●議長 大山修二君 厚谷市長。

●市長 厚谷 司君 櫻井議員の夕張の歴史風土と環境を生かした独自のカリキュラムづくりに関するご質問にお答えをいたします。

昨年度から、夕張高校校長、教育長、私で夕張高校の魅力化を進めるに当たりましての基本的な方針や目的を明確にするために、夕張高校魅力化プロジェクトビジョン、こちらを定めまして、その達成に向けて夕張高校、小・中学校、PTA、地域振興課、教育委員会の実務者で構成する戦略検討会議を設置し、人材育成のための魅力的なカリキュラムづくりを進めてきているところでございます。

具体的には、あのビジョンの中でも盛り込んで参りましたけれども、夕張はかつて石炭で日本を支えたまちでございます。しかしながら、現在、日本の中でも課題先進地域と呼ばれておるわけでございまして、マイナス面がクローズアップされている、そのような面も考えられるわけでございます。

その夕張市が様々な社会課題を最新のICT技術や既存の枠組みにとらわれない政策で解決する。このことで課題を解決する課題解決の先進地域に変貌をし、日本を支える様々な人材を育て、日本を動かすエネルギーとして輩出するという独自のビジョンを掲げまして、夕張高校卒業までに身につけてほしい学力の3要素として、ふるさとに誇りを持ち挑戦を完遂するチャレンジ・モア・スピリットや一山一家の精神で協働して前へ進む協働力、こうしたものを定めまして、カリキュラムに組み入れるため、その具体的な内容と習得する手法について、現在、戦

略検討会議で検討を積み重ねているところでございます。

以上でございます。

●議長 大山修二君 再質問、ありませんか。

櫻井議員。

●櫻井 暁君 ありがとうございます。

課題先進地域として、石炭のエネルギーから人材をエネルギーとして日本に輩出するという壮大なビジョンであることが分かりました。市内外両方の中学生から多く選んでもらうためには、夕張独自の魅力を分かりやすく発信することが必要です。魅力とは夢のあるものであり、進学先を決めるに当たっては、子どもがなりたいもの、やりたいことができる環境を選んでいると考えます。我が家でも、最初は夕張高校を目指していた子どもが、どうしても酪農に興味があるということで、今年の春に岩見沢農業高校へ進学しました。そういった意味でも、課題を解決したいと進学を決める生徒が実際にいるのかどうか疑問にも思います。夕張高校で夕張の歴史と課題を学ぶことはもちろん大切ですが、夕張にはメロンやスキーといった分かりやすく明るいコンテンツがあります。それを魅力化の中心に据えるお考えはないのか、市長のご所見を伺います。

●議長 大山修二君 答弁調整のため、暫時休憩いたします。

午後6時50分 休憩

午後6時50分 再開

●議長 大山修二君 会議を再開いたします。

厚谷市長。

●市長 厚谷 司君 櫻井議員の再質問にお答えをいたします。

先ほど質問に対する答弁の中で、ビジョンを含めて壮大だというふうにお話をいただくような内容ではございますが、簡単に表現しますと、やはり複雑混沌とした社会に生徒さんを送り出すということを考えますと、やはりその社会の中でしっかりと自分

の力を発揮し、また、困難にも背中を向けることなく、やはり自分から解決をしていきながら前に進んでいく、そういった力をぜひ携えていただきたいという思いがあるわけでございます。

その中で、先ほど、例えば身近なコンテンツで夕張であればメロン、あるいはスキーというお話がございましたけれども、現在、戦略検討会議の中で検討を進めていく中で、そういったものがどのように有効に活用できるか、あるいは、今回の高校魅力化のメニューとしては、別なところでそういったものを活用していくかなども含めて、今後の検討になっていこうかと思っておりますので、現段階での明言はできないということをご了解をいただきたいと思っております。

以上でございます

●議長 大山修二君 再質問、ありませんか。
櫻井議員。

●櫻井 暁君 ありがとうございます。

市内の保護者からは、もう高校がなくなってからのことを考えてほしいという切実な意見も聞かれています。市の取組と保護者との温度差があることを真摯に考えるときが来ています。現在の夕張市と高校の取組として、市長や教育長による特別授業や市役所の業務体験など、また、メロンハウス作りなどもあります。夕張から学ぶ機会はほかにはない特色です。生徒にも地域にも分かりやすく有効なカリキュラムで生徒数が増え、高校が存続されることを願います。

それでは、要旨の3点目に移ります。

部活動について伺います。

地域の自然を生かしたスキー部の創設が保護者から求められており、今ある資源を有効に活用した夕張ならではの魅力であると同時に、市内外からの生徒を呼び込むための大きな特色になると考えますが、現実の可能性について伺います。

●議長 大山修二君 厚谷市長。

●市長 厚谷 司君 櫻井議員の部活動に関するご質問についてお答えをいたします。

高校の部活動でございますが、創設されるために

は、生徒の要望などによりまして高校の判断において創設されるものでございます。市といたしましては、生徒や保護者からのニーズが高まってきた際には、必要に応じて高校に要請をしますとともに、部が創設された場合については、挑戦する生徒を応援するチャレンジ補助などによる支援について検討して参りたい、そのように考えております。

以上でございます。

●議長 大山修二君 再質問、ありませんか。
櫻井議員。

●櫻井 暁君 前向きなご検討をありがとうございます。

保護者からの情報を受けまして、市内のスキー指導者久慈先生に聞き取りをしましたところ、9年前は夕張高校にスキー同好会を創設し、道立であっても高校の裁量で公欠扱いとなり大会などで活躍できたそうです。6年前から活動ができなくなり、今年、中学3年になる生徒が4名いることから、2月に市長と教育長への申入れを行ったそうです。道立高校のルールからスキー同好会を再開するのは難しいとの判断だったとお話をお聞きしました。

現在、北海道の公立校では遠軽高校がスキー同好会を学校長裁量で認め各大会に参加しているそうです。先ほどのご答弁では補助も受けられるということ、大変保護者の方も喜ぶと思います。

先にお話しした4名の中学3年生ですが、夕張高校のスキー同好会が難しいというお話の後、4名中3名が夕張高校を諦め市外への進学を決めたそうです。今年度もスキーで好成績を収めた貴重な人材が夕張高校に残れない現状がありました。先生も、このような状態なら今後の夕張での活動も考えなければならないと話されていました。市外からの生徒を呼び込む前に、市内の生徒を逃がさないということも念頭に置くべきではないでしょうか。スキー場が近く、優秀な指導者がいる夕張の環境を生かして、ぜひ生徒の成長を一丸となって応援していく体制を整えていただきたいと思っております。

では、要旨の4点目に入ります。

夕張高校の給食の実施について伺います。

秋田の公立高校では、数年前から検討を重ね、少子化で小・中学生が減り給食センターに余力ができたために、2022年の夏に実施を判断したそうです。メニューは、牛乳がない以外は中学校と同じで、一食250円、希望者に提供しています。宮城県の公立高校でも、昨年からおかずだけの給食も始まっています。北海道では、足寄町、大樹町、剣淵町、弟子屈町などが実践しています。高校給食の実施は、高校魅力化対策の魅力化事業の一環として、昼食の心配をしなくて済むということをメリットに、生徒を増やすことにつなげていけるのではないかと考えます。これからの全国募集を踏まえた措置としての市長のご所見を伺います。

●議長 大山修二君 厚谷市長。

●市長 厚谷 司君 櫻井議員の高校魅力化事業の一環での高校給食の実施に関するご質問についてお答えをいたします。

夕張市は、高校魅力化事業の一環といたしまして、チャレンジ補助や公設塾の設置など、保護者負担の軽減や生徒の挑戦を応援する取組を進めてございます。また、令和6年度から市外生徒受入れを目指して、現在、夕張ならではの魅力的なカリキュラムづくりとともに、受入れのための仕組みづくりを検討しております。今後も地元の生徒だけではなく、市外の生徒も行きたくなる、その保護者も行かせたくなる魅力ある高校づくりに向けて、ご提案をいただきました高校での給食について、ほかの市町村の取組状況、衛生面での関係法の解消策、それから、北海道教育委員会の見解、事業費などについて情報収集をするとともに、市民の皆様のご意見もお聞きしながら、本市としてどのような取組が可能か、研究をして参ります。

以上でございます。

●議長 大山修二君 再質問、ありませんか。櫻井議員。

●櫻井 暁君 ご答弁ありがとうございます。実施されている高校では、弁当を作る保護者の負

担軽減にもなり、地元食材の活用で農家の応援にもつながるとし、また、給食があることでほかの高校との差別化もでき募集に効果があるとあります。給食センターと共同調理場の違いや、人員など、夕張では難しいということであれば、市内の配食業者を斡旋し、希望者には半額補助を行うなどの方法も考えられると思いますが、いかがでしょうか。

●議長 大山修二君 厚谷市長。

●市長 厚谷 司君 櫻井議員の再質問についてお答えをいたします。

先ほど答弁をさせていただいた内容と重複をいたしますけれども、今後、本市としてどのような取組が可能かということにつきまして、ただいまお話がありましたことも当然含まれると思いますので、そういった対応が可能なものかどうか、あるいはそれを実施するか否かということについても、今後、研究をさせていただきます。

以上でございます。

●議長 大山修二君 再質問、ありませんか。櫻井議員。

●櫻井 暁君 ありがとうございます。

保護者には毎日のことですので、検討を重ねて近い将来実現することができたら、ここも大きな魅力につながると考えます。ぜひ夕張市全体の思いを一つにして、夕張高校の子どもが行きたい場所にする、保護者が行かせたい場所にする、そこで育つ子どもたちを全力で応援する覚悟と危機感を持って対応することを強く求めまして、以上で私の質問を終わります。ありがとうございます。

●議長 大山修二君 以上で、櫻井議員の質問を終わります。

次に、工藤議員の質問を許します。

工藤議員。

●工藤政則君（登壇） このたび市議会議員選挙におきまして、無投票ではありますが、市議会議員を拝命いたしました。1期目ではありますが、議会の一員として精進をさせていただくつもりで考えておりますので、どうぞよろしくお願ひしたいと思いま

す。

また、厚谷市長におかれましても、さきの選挙において、市民の負託を得て2期目として市政に取り組まれる。このことに対しましては敬意を表し、また、夕張再生のためにご尽力いただくことを切に期待をさせていただいております。

本日、私は、通告に従い、さきの所信表明の中に地域経済を支える基幹産業と位置づけられている農業振興政策について質問をさせていただきます。

まず、1点目ですが、夕張メロン農家の担い手確保について。

市長は、所信表明で農業を基幹産業と位置づけ、夕張メロンを基幹品目とされていますが、農業担い手の確保策をこれまでも実施し、今後も生産者、農業関係機関と三位一体となり担い手の確保に努めるとされています。

夕張メロン組合の組合員は、この10年間で131名から98名、25%の減少。基幹的農業従事者については、直近2回の農林業センサスによりますと、360名から313名へと13%の減少、40代以下に限っては132名から113名に14%の減少、こういったことが続いているのが現状であります。

そこで、これまでの施策の進捗状況を伺い、併せて取り組もうとされている確実性の高い施策について、どのように三位一体の協議を進めていこうと考えておられるのか、市長のお考えを伺いたしたいと思います。

●議長 大山修二君 厚谷市長。

●市長 厚谷 司君 工藤議員の夕張メロン農家の担い手確保に関するご質問にお答えをいたします。

担い手確保に対する対応といたしまして、これまで農業サポーターや外国人技能実習生などの受入れと住環境の整備を推進し、これまで延べ21名の農業サポーターを受け入れるとともに、市営住宅の目的外使用などによりまして受入れ環境の改善を図って参ったところでございます。

農業サポーターにつきましては、応募人数は多いものの採用者は少なく、早期に離職される場合もあ

りますことから、今後とも引き続き担い手を安定的に確保できるよう努めて参ります。

また、三位一体の協議につきましては、市や農業関係機関で構成されます夕張市農業振興協議会に定期的な情報交換ができる場として、新たな部会の設立に向けて検討をしているところでございます。市といたしましては、生産者や農業関係機関の皆様と活発な議論を重ね、現場の意見に基づいた、より可能性の高い、より確実性の高い施策に取り組んで参ります。

以上でございます。

●議長 大山修二君 再質問、ありませんか。

工藤議員。

●工藤政則君 農業サポーターの制度、これまでされてきている中で、非常に現場としても助かっているという声と、まだまだ非常に使いづらい、また、今後に向けても非常に定着率の悪さであるとか、そういったことの中での課題、そういったものが非常に聞こえてきているのが現状かなということで、この制度についても始まって4年、そういう中で、これからもっともっとしっかりした制度になっていけばいいのかなというふうに思っておりますので、その辺のところを市長のリーダーシップを発揮していただいて、よりよい制度になっていくように、制度の拡充、また、いろいろな多方面から募集がかけられるような状況づくりといったものに検討を進めていただきたいと思っております。

また、振興協議会の中に新たな部会の設置というふうに建設的なご意見をいただきました。このことについては、非常に行政と関係団体とが定期的に密接に協議をして、今後の農業政策というものを現場の声としてつなげていく、つないでいく場になろうかなというふうに思いますので、その辺のところをぜひともしっかりと前に進めるように、今後の進捗に期待をさせていただきたいと思っております。私から次の質問に移らせていただきたいと思っております。

今ほどありましたけれども、農業従事者の住宅整備についての質問をさせていただきたいと思っております。

これまでも農業サポーターの全国募集や住宅の確保を実施してこられておりますが、農業従事者も市内在住の方から、近隣の自治体から通勤されている方、また、遠く全国より夕張に滞在をして働いてこられる方、そのほかにも、さらには技能実習生1号、2号、特定活動、特定技能派遣型という方など、外国人だけでも今現在5か国から53名、所在地や国籍、性別、宗教も多様化する中で、住環境も様々なニーズに応えることが必要であるかなというふうに考えます。今現在、市営住宅の目的外使用も行われておりますが、この現状についてと、また今後の方向性について市長のお考えを伺いたいと思います。

●議長 大山修二君 厚谷市長。

●市長 厚谷 司君 工藤議員の農業従事者の住居整備に関するご質問にお答えをいたします。

市営住宅の目的外使用の制度につきましては、本来の入居者の入居を阻害しない範囲で短期滞在できる住宅として活用し、労働力の確保などを図ることを目的とするものとなります。現在、市営住宅のうち4団地、14戸がこの制度を活用するために必要となる国の承認を受け目的外使用の対象となっており、また、農業サポーターや外国人技能実習生などの農業従事者を市外から受け入れるためには、生活の拠点となる住宅の確保が重要となります。市といたしましては、市営住宅の目的外使用の制度などを最大限に活用しながら、市内における住宅確保に向けて努力をして参りたいと考えております。

以上でございます。

●議長 大山修二君 再質問、ありませんか。工藤議員。

●工藤政則君 今現在そういう形でされている状況の中で、非常にそう言いながら、なかなか使いでが悪かったり、なかなか使う側のニーズに応えられていないということであったり、あと市営住宅そのものの老朽化の問題、そういったことがやはり今現在利用されている方から非常に寄せられている声なのかなというふうに思っております。その辺のところ、非常に大変そういったことを拡充していくと

いうことは簡単なことではないとは思いますが、ぜひともそのことを最大限努力をいただき進めたいというふうに思っておりますし、また、市営住宅の問題にとどまらず、もうちょっと幅の広い形でも、今後、農業地域に近いようなところでの住宅の確保、整備、そういったことができるようなことも視野に入れていただくこともお願いを申し上げて、私からの2番目の質問を終わらせていただきたいと思っております。

それでは、3番目の質問に入らせていただきます。

農業政策の執行体制についての質問をさせていただきます。

市長は、農業が本市の基幹産業だというふうに考えておられると。その中で、農業政策を推進する執行体制、地域振興課農林係がその中心になるかなというふうに思いますが、この現状と、課長、主幹が今現在、国や道からの派遣職員に頼らなければならないというこの現状の中でのプロパー職員の育成について、市長はどのようにお考えなのか、お考えをお伺いしたいと思います。

●議長 大山修二君 厚谷市長。

●市長 厚谷 司君 工藤議員の農業政策の執行体制に関するご質問にお答えをいたします。

工藤議員ご指摘のとおり、農業振興を支える立場の本市農林係の職員体制でございますが、プロパー職員3名のほか、担当主幹、課長とも、北海道及び総務省からの派遣職員を充てております。財政再建を進めるため、限られた職員で行政を運営する必要がある本市の事情に鑑みても、なお責任ある役職に長期間プロパー職員を据えることができていないことについては、将来を見据えた農業政策を進める上で改善すべき点だと私も考えております。

一方で、この間、北海道の視点、オール日本の視点という幅広い視点を派遣いただいている職員から本市の農業分野に還元することができたというプラスの面もあると考えております。

プロパー職員につきましては、各種研修の実施や配置替えによりシェアの拡大を図るなど、鋭意実施

をしているところでございまして、財政再建後を見据え、一歩ずつではありますがプロパー職員の育成に努め、可能な限り早期に育成したプロパー職員を責任ある役職に配置すべく検討をして参ります。

以上でございます。

●議長 大山修二君 再質問、ありませんか。

工藤議員。

●工藤政則君 大変私たちも、やはり今現在の体制では非常に地域振興課という課自体が非常に幅の広い課となっていて、この地域振興課が統括を行っている業務の中での農林の位置づけというものがまだまだ夕張市の中ではそんなに大きな形になっていないのではないかと、そういったふうに捉える市民の方も非常に多いのかなというふうに思っております。

ぜひともその辺のところ、市長のほうから地域振興課の今後の機構改革を含めてのこの範囲等の問題、農林を独立させるのか、産業の部分で独立させるのか、そういったことであるかとか、また、農林係の部分については、どういう形で育成をされていくのかというよりも、育成の中で人数の拡充といったものを考えておられるのかどうか、その辺のところについても市長のお考えを伺いたしたいと思います。

●議長 大山修二君 答弁調整のため、暫時休憩いたします。

午後7時16分 休憩

午後7時18分 再開

●議長 大山修二君 会議を再開いたします。

厚谷市長。

●市長 厚谷 司君 工藤議員の再質問についてお答えをいたします。

機構改正も含めた、いわゆる農業振興に当たる職員の今後の体制について、現段階での私の考えということでございますけれども、議員にもご承知をいただいておりますとおり、今、まだ財政再建中という中でいけば、職員定数の確保というものもルール

に従った上で行っておるというところでございます。昨日の所信表明の中でも述べさせていただきましたが、昨今、多様化する業務の内容等も含めて、現在の職員数でも充足しているとは言えないという状況の中で、今、職員には頑張ってもらっております。

そのような状況でございますが、先ほど質問がございました基幹産業をどういう形で支えていくかということについては、今後も引き続き研究をさせていただき、現在の職員定数の中でどのような配置が可能かということについては常に考えて参りたいと、そのように考えております。

それと同時に、やはり人材育成という観点で申し上げれば、デスクワークだけできればよいということでは決してないと思っておりますし、これまでも1人当たり課せられている業務というのが非常に多いということもありまして、やはり現場、フィールドに出ていく時間というのも限られていた部分があるのではないかとこのように考えるところでございます。

やはり工藤議員からの再質問にもございました農業関係機関、あるいは生産者の皆さん、それと私も行政、ここが一体になっていくということは、日常的な現場に足を運ぶということも含めた関係構築というのが大事になってくると思っておりますので、そういったところも少しでも多く実現できるように、どのように対応すればよいかということを検討をさせていただきたいと考えております。

●議長 大山修二君 再質問、ありませんか。

工藤議員。

●工藤政則君 ありがとうございます。

大変今できる中での精いっぱいをお答えいただいたのかなというふうに考えております。その中で、農業政策、農業振興ということは非常に大きな課題であるし、非常に重要なことであるというふうに市も認識していただいていることだと思っておりますので、その辺のところ、今、私のほうからは農業執行体制ということで質問をさせていた

いただきましたが、当然、市の職員の皆さん、それぞれ一生懸命少ない人数の中で頑張られていると思っておりますし、また、先ほどの質問の中でもさせていいただきましたけれども、課長、主幹が応援をいただいている、派遣をしてくださっている職員であると。そういったところでは、大変この16年間も非常にありがたかったことですし、また、この先も当面はそういう形をお願いをしていかなければならないでしょうし、それをまたスムーズな形で4年後以降、きちんとプロパーの職員に育てていただいて、新しい夕張市の執行体制ができるということを私も願っておりますし、私もそのために努力をさせていただきたいというふうに考えております。

そういう中では、本当に今年、来年のこのつもりで私も質問させていただいておりますので、この4年間をかけて、4年後に新たな夕張市の姿が見えてくるように、その辺のところを考えた中で、この辺の体制づくりというものも、市長に先頭に立っていただけて頑張らせていただきたいと思います。そういうことを申し上げさせていただいて、私からの質問に代えさせていただきますと思います。

●議長 大山修二君 以上で、工藤議員の質問を終わります。

以上で、通告されました質問は全て終了いたしましたので、日程第1、一般質問はこれをもって終結いたします。

●議長 大山修二君 以上で、本日の日程は全て終了いたしました。

本日は、これをもって散会いたします。

午後7時23分 散会

地方自治法第123条第2項の規定により、ここに署名する。

夕張市議会 議長 大山 修 二

夕張市議会 議員 櫻 井 暁

夕張市議会 議員 千 葉 勝